

4 感染症対策の強化

病院機構では、運営上、中期計画を定めており、その中で感染症対策の強化に関する項目を設け、対策の充実、徹底など病院ごとに取り組んでいるところである。

新型コロナウイルス感染症の流行以降、各病院では院内感染対策をさらに強化し、感染症管理体制の充実を図るなど、感染症に関する取り組みを進めた。

循環器・呼吸器病センター	がんセンター	小児医療センター	精神医療センター
<p>● 院内感染の発生及び拡大の防止のため、感染源や感染経路等に応じた適切な予防策を実施するなど院内感染対策を徹底した。</p>			
<p>感染管理室で疫学調査に基づいたリスク評価を行い、検査対象を広めに設定することで、拡大防止・院内クラスターの発生を防ぐよう院内感染対策を実施した。</p>	<p>院内感染管理室（管理者、ICD、専従認定看護師）を中心にマニュアルの策定、適切迅速な対応を打ち出し、職員が迷うことなく対策が実施できるように活動を行った。</p>	<p>院内感染の発生及び拡大防止のため、感染源や感染経路等に応じた適切な感染予防策を実施した。</p>	<p>感染発生状況を共有するとともに、適切に感染予防策を実施した。令和4年度は、標準予防策を徹底し、入院時や有症状者のPCR検査実施により適切な感染対策を実施した。</p>
<p>● 院内感染対策委員会で感染症対策や多剤耐性菌に係る情報を共有するとともに、手指衛生の実践状況の調査や手指消毒剤の積極的な活用を図ることで、感染防止の徹底に努めた。</p>			
<p>毎月、感染症対策委員会を開催し、感染症対策や多剤耐性菌に係る情報共有を図り、感染防止に努めた。必要に応じて、臨時の委員会も開催した。手指消毒剤使用量調査は継続的に実施し、毎月フィードバックした。</p>	<p>毎月の院内感染対策委員会で情報共有するとともに、患者一人当たりの手指消毒回数と耐性菌の検出数の関連性について院内掲示することで感染防止対策の啓発を行った。 また、リンクナース(※)による手指衛生の順守状況の調査を3回、加えて令和4年度は感染対策チームによる調査を2回実施した。</p>	<p>院内の感染対策委員会を毎月開催し、感染症対策、多剤耐性菌に係る情報共有を行い、感染防止の徹底に努めた。 また、手指衛生の実施状況調査を適宜実施し、手指消毒剤の使用量について毎月委員会に報告した。</p>	<p>院内感染対策委員会で情報共有した。また、手指消毒剤の個人持ちや各所への設置により手指衛生を徹底するとともに全職員対象に手洗いチェッカーを利用した手指衛生確認を実施し、感染防止に努めた。</p>
<p>※リンクナース 院内感染対策チームなどの専門チームと病棟看護師とをつなぐ役割を持つ看護師</p>			
<p>● 新型コロナウイルス感染症対策マニュアル及び流行感染症を中心とした対策マニュアルを適宜見直し、それを活用した職員研修等を行うなど啓発に努め、標準的な予防策及び発生時の初期対応を徹底した。</p>			
<p>感染防止マニュアルは適宜更新するとともに、新型コロナウイルス感染症に対応したマニュアルやフローを整備し周知した。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対策マニュアルの策定、適宜更新を行い、各部署へのラウンド、標準PPE（個人防護具）やフルPPE着脱の指導なども徹底して行った。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対策マニュアルについて、随時見直しを図り、院内周知を実施した。</p>	<p>より実践的なものとするため、現状に沿った内容にするなど最新の内容にマニュアルを改訂して各部署へ配布するとともに、共有ファイルで職員全員が閲覧可能にし、感染対策の周知徹底を行った。</p>
<p>● 感染症防護用具の備蓄状況や利用しやすい状態で配置されているかを定期的に確認し、日常的に体制を整えた。</p>			
<p>毎週病棟師長と用度担当が協働し個人防護具等感染防止物品の在庫を調査し補充する等、在庫管理を行った。 また、月1回のICT環境ラウンドチェック時に、感染症防護用具が適切に配置されているかを確認した。</p>	<p>院内ラウンド、環境整備、感染対策物品の配置などのチェックを通じて確認を行ってきた。</p>	<p>令和3年度は感染症防護用具の使用頻度が高く、在庫状況を毎週確認し、日常的に体制を整えた。</p>	<p>毎月、関係部署と感染防護用具数の在庫状況の確認と共有を行い調整した。診療材料を保管する倉庫の整理を実施し在庫把握を容易にした。 また、感染症防護具に係る在庫管理ファイルを院内で共有し、適時更新することで在庫の認識共有を容易にした。</p>
		<p>さらに、感染患者発生時には関係部門と連絡を密にし、防護用具の在庫管理に努めた。</p>	

循環器・呼吸器病センター	がんセンター	小児医療センター	精神医療センター
<p>● 感染症が発生した際には、予防策の再確認と今後の防止策を迅速に協議し、院内の情報共有を図り、二次感染の予防に努めた。</p>			
<p>院内での感染が疑われる事象があった場合や、緊急で情報共有が必要な場合は、速やかに臨時の感染症対策委員会を開催し、対応策と情報共有を図った。 ※臨時感染症対策委員会： R3年度 25回開催 R4年度 3回開催</p>	<p>職員や職員家族の体調、感染状況の把握と迅速な対応を指示した。 院内感染発症時には迅速な方針の打ち出し、患者の移動、病棟のゾーニング、職員PCRのドライブスルー検査実施などコロナ対策本部会議を利用しながら方針を決定し、二次感染防止に向けた対策を実施した。 さらに、こうした対策の実施状況を部局長会議で報告し、院内における情報共有を図った。</p>	<p>感染症が発生した際は、二次感染の予防に向け迅速に動き、必要場合は病院長をトップとした防疫対策本部会議を開催した。</p>	<p>接触者の把握、自宅待機の指示などセンター運営会議で協議し、健康観察と環境整備の実施を強化した。 病棟内でクラスターが発生した際、センター運営会議での協議や感染専門医へのコンサルトにより、対応方針を明確にするとともに、感染源や感染経路に応じた感染対策を実施し、感染拡大を防いだ。 また、クラスターの発生を分析し、強化すべき感染対策を周知した。</p>
<p>● 新たな感染症や結核等の再興感染症に対しては、関係機関と連携しながら、各病院の機能及び特性を生かした取組を推進した。(加えて、通常診療との両立に努めた。)</p>			
<p>県の関係各課、保健所、医師会と連携し、当センターに求められる役割を果たした。 新型コロナウイルス感染症の重点医療機関として、県内全域の医療機関から要請があった場合は、速やかに重症患者の受け入れ等を行った。 また、県が実施する新型コロナウイルス感染症のためのトレーナー派遣事業にも協力し、感染症対策に精通した看護師を地域医療機関等に派遣し、感染防御対策に関する技術的支援及び助言を行った。</p>	<p>県調整本部と連携を取りながら、患者受入に対応した。 また、感染対策向上加算に係る医療機関との連携を17医療機関と結び、年1回の合同カンファレンス及び、PPE着脱訓練を実施した。 令和4年度は、新型コロナ患者の受け入れ継続、結核病棟の再開等、県の関係各課、保健所、医師会、地域の病院と連携しながら、当センターに求められる役割を果たしつつ、通常診療と両立できるように努めた。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対策として、県調整本部や保健所と連携し、重症患者を中心として患者の受け入れ等を行った。また、COVMAT(※)のメンバーとして活動した。 令和4年度は職員の健康管理や感染症対策を取り、効率的なベッド運用に努め、外来診療においても大きな診療制限なく運用し、通常診療との両立を図った。</p>	<p>センターで対応可能な範囲で患者を受け入れ、関係機関と連携しながら対応した。 令和4年度は他の精神科病院で対応できない新型コロナウイルス感染症患者を令和3年度から24人増の36人受け入れた。また、診療制限はせず、通常診療と両立した。</p>
		<p>※COVMAT： 病院や福祉施設等における新型コロナのクラスター事例へ対処するため、感染症に詳しい医師、感染管理看護師、現地調整・記録等を行う事務職員からなる現地派遣チーム。</p>	
<p>● 会議や研修会においては感染症リスクを考慮し、状況に応じてオンライン開催することができるよう環境整備を強化した。</p>			
<p>Zoomを利用したハイブリッド会議やセーフマスター（チーム医療システム）による動画研修など会議や研修をオンライン開催にし、感染対策を行った。</p>	<p>市中や院内での感染状況のレベルに応じ、予め作成した院内フェーズを適用し、フェーズに応じてオンライン開催とするなどの感染対策を行った。</p>	<p>Zoomを利用したハイブリッド会議を開催し、会議室内は常時換気、席配置や人数に応じた開催時間等に配慮した。</p>	<p>外部との会議や研修会はオンライン開催で行うよう配慮した。 また、会議や研修会においてはWeb会議アプリの操作に不慣れな職員へレクチャーするなど、円滑にオンライン開催ができるよう配慮した。</p>
<p>● 院内感染防止対策及び抗菌薬適正使用に係る教育、研修を行い、意識、技能の向上を図った。</p>			
<p>感染対策研修、抗菌薬適正使用に係る研修をe-ラーニングで実施し、職員の意識向上を図った。</p>	<p>感染対策及び医薬品安全管理に関する研修を、参加者を絞った対面での開催と、後日動画視聴のハイブリッドで実施した。</p>	<p>AST(抗菌薬適正使用支援チーム)研修会を開催し、抗菌薬適正使用に係る情報共有を行い意識と技能の向上を図った。</p>	<p>感染防止対策研修会や医薬品に関する薬剤部の全体研修の開催を図った。</p>